

#### 4. [人工妊娠中絶の背景に関する臨床調査結果]

防衛医大 産婦人科：永田一郎、古谷健一、戸出健彦

##### 1. 調査結果

- ①妊娠初期の感染症スクリーニングの結果による人工中絶はほとんどみとめられない。
- ②中高年者における中絶理由のほとんどは、いわゆる「うっかり妊娠」である。

その内訳は

- ①「もうこの年では妊娠できないと思っていたが妊娠してしまいました。」という理由
- ②避妊法の失敗等

##### 2. 背景

- ①正しい避妊法の不履行（中間射精の乱用、経口避妊薬の回避）
- ②女性生理の正しい知識の欠如（無排卵と月経不順の混同など）
- ③女性の社会進出と論理感の変化
- ④中高年婦人のセクシャル・アクティビティの亢進

##### 3. 今後の課題（中高年婦人の中絶を減少させるために）

- ①低容量経口避妊薬の導入と啓蒙
- ②中高年婦人に対する再度の性教育
- ③中高年婦人における妊娠時のリスクの再認識（絨毛性疾患の増加）
- ④HRT（ホルモン補充療法）の早期実施と啓蒙
- ⑤上記①～④に関する相談施設・窓口の設置（病院・保健所・電話相談等）

##### 4. 防衛医大における研究計画

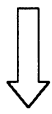
われわれはこれらを基に実態調査を計画している。

調査方法：

- ①中絶を多く扱っている関連病院に期限を定めて症例ごとにその理由を分析する。
- ②いくつかの病院外来患者の中絶経験者について、中絶時の年号、年齢と、その時の中絶の理由をアンケート形式で調査する。
- ③ある地域住民の中絶経験者につて、中絶時の年号、年齢と、その時の中絶の理由をアンケート形式で調査する。
- ④臨床検査部門に過去数年間の妊婦検査におけるTORCII抗体検査陽性例をあたり、その症例の経過を追跡調査する。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



#### 1. 調査結果

妊娠初期の感染症スクリーニングの結果による人工中絶はほとんどみとめられない。  
中高年者における中絶理由のほとんどは、いわゆる「うっかり妊娠」である。

その内訳は

「もうこの年では妊娠できないと思っていたが妊娠してしまた。」という理由  
避妊法の失敗等